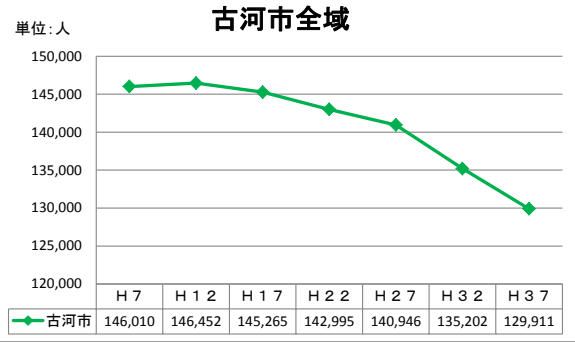
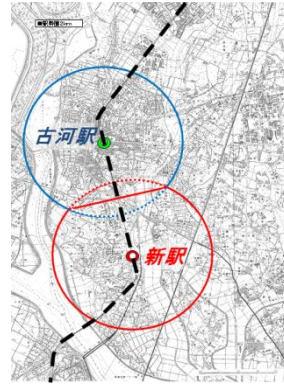


東北本線(仮)南古河新駅設置計画再基礎調査業務報告書 概要【平成30年2月】

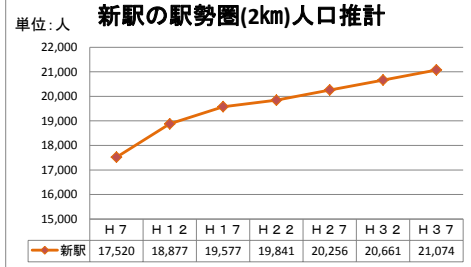
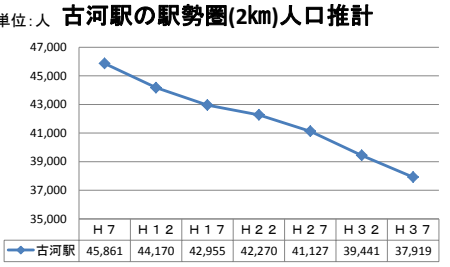
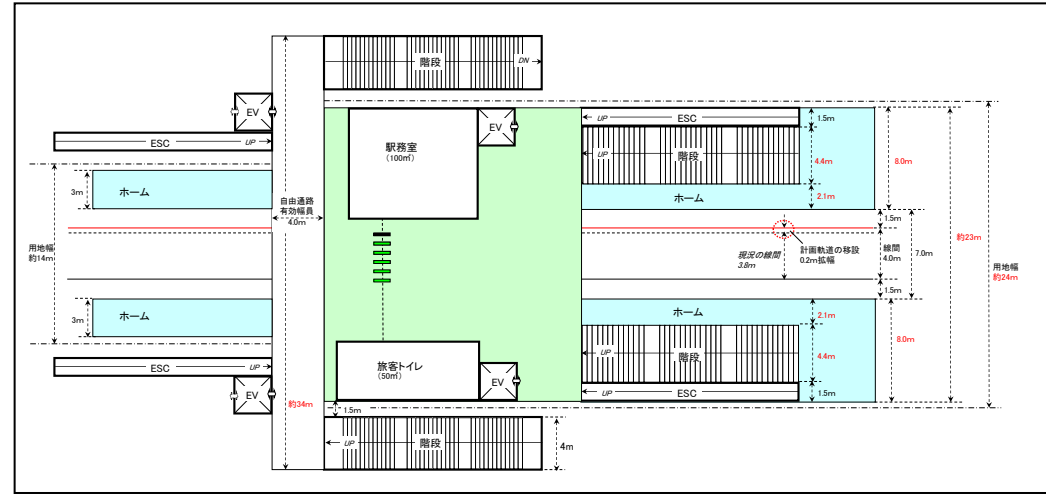
1 将来人口推計(国勢調査をベースに推計)



駅勢圏2km図

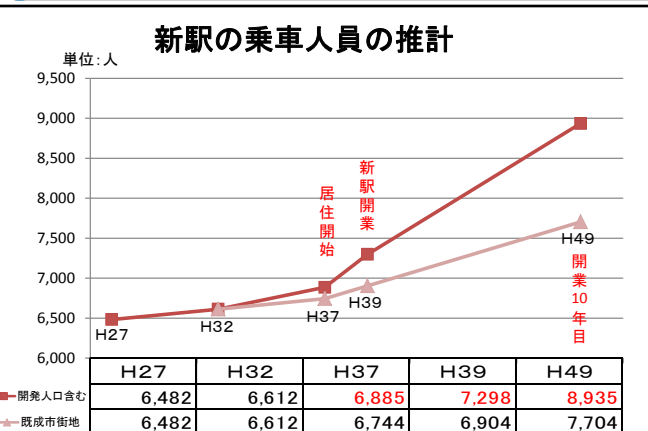


3 新駅(南古河)の計画案



市全域では減少傾向であるものの、新駅周辺では増加傾向にある。そのため、新駅の将来人口については、今後も増加すると想定し、増加率2%とした。

2 乗車人員の推計



○推計条件
・人口推計値に鉄道利用率32%を乗じ積算

・現住人口のみの推計値と開発人口を含む推計値で比較

・平成37年より、区画整理事業による入居が開始されると想定

・平成39年より、新駅が開業となると想定

4 概算工事費

(仮)南古河新駅 概算工事費総括表

(単位:億円)

項目	金額			備考	
	今回調査	過年度調査	差異		
本体 工事	軌道	11.3	1.4	9.9	準備工、線路切り替え 仮設工、ホーム、駅舎、自由通路等 エレベーター、エスカレータ、駅務室の空調等 その他工事費(5.4)、保安費(11.9)、工事付帯(7.2)
	土木・建築	38.6	12.3	26.3	
	機械	4.3	3.4	0.9	
	その他	24.5	3.8	20.7	
関連工事	27.5	27.5	0	前回調査と同額を計上 電気(11.7)、鉄道システム(10.8)、管理費等(5.0)	
総額	106.2	48.4	57.8		

※概算工事費が大きく増額となった主な理由は次のとおり

1. 工事単価の改正
近年、震災復興やオリンピック開催等により工事単価が高騰
2. 工事費算出の考え方の変更
過年度調査(平成20年度)では、工種ごとに大きくりした㎡単価で算出していたが、今回調査においては、工種を細分化した部材別単価を採用し、細かい積み上げによる積算を行った。